



“いま、和寛心のとき”

フォーラムたより

2023
5月号
No.61

多様性の連帯で前進しよう

金光教首都圏フォーラム議長 山田 信二

各教会連合会では、昨年末で会長の任期が満了し、今年から新しい体制での活動が始まっています。首都圏五連合会の連帯の場である首都圏フォーラムも、今年から新たな任期に入りました。これから三年間、メンバー一同新たな気持ちで務めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今期、首都圏で初めて女性の連合会長が生まれました。新しい時代の始まりを感じさせるとても喜ばしい出来事であると思います。

日本は、女性の共同参画が先進国の中でも遅れていると言われていています。金光教の歴史を見ても、女性の働きと貢献は大なるものがあるにもかかわらず、組織としては役職者の多くを男性が占めるアンバランスが続いてきました。

金光教の教祖様は、すべての人は神の氏子であると説かれました。世代、性別、国籍、人種等の差異を越えて、人はみな天地金乃神様のいとし子であり、尊厳存在であり、お互いがその違いを認め合い生かしあって、すべての人が幸せに生き、神様が

喜ばれる世界を実現していくことを願われました。教祖様のご信心は、言ってみればダイバーシティ（多様性）尊重の先駆けであると言えます。

日本でも、先進諸国と比べて遅れを取ってはありますが、女性の社会参画、性の多様性の尊重、障がい者の社会参加などが、持続可能な社会の実現にも重要であると言われていています。多様な視点、多様な価値観は、私たちの社会を豊かなものにしてくれるのです。金光教にとっても、同じことが言えるでしょう。

また、少子高齢化社会にあつて、世代間の人口バランスは大きく変わっています。本教の御用の場でもそれを実感しています。若い教師信徒が少なくなっている中、もはや「若い者がやってくる」と言っているわけにはいかない状況です。

首都圏フォーラムの合言葉は「布教と連帯」です。今こそ、ダイバーシティの「連帯」を求めながら、世代を越えた総がかりの「連帯」をもって、首都圏布教を進めていきたいと願っています。

首都圏フォーラム新しい顔ぶれ

フォーラム会議構成員

【敬称略】

（茨城・栃木）

岡本真美、菊池瑞昭

（群馬・埼玉）

松本峰子、小笠原操

（千葉県）

鈴木宏政、菅原安喜子

（東京都）

鈴木一嘉、松本信吉

（神奈川県・山梨）

山田信二、川込光貴

【議長】

山田信二

【副議長】

鈴木一嘉、岡本真美

【事務局長】

川越基如、福田俊介、小柴貴範

【主査】

ホームページ（小笠原操）

フォーラムたより（鈴木宏政）

【監事】田中美和子、進藤寛子

【団参委員会】

委員長（山田信二）

副委員長

（湯川光信）

監事

（田中美和子）

【支援機構事務局長】

局長（宮田和弘）

局長（横瀬佳子）

首都圏布教御礼祈願祭に思う

副議長 鈴木 一嘉

「今度首都圏で大切な祭典があるから、お前も参拝するように！ そうだ典楽の御用もさせてもらうといい」と、教会長である父から言われ、半強制的に参拝を促された祭典こそ、昭和六十三年首都圏布教一〇〇年の祝年に東光園で仕えられた第一回「首都圏布教御礼祈願祭」であった。当時私は翌年に学院入学を控えた大学四年生の時であった。今は運行されていない0系新幹線の先頭に、八波の御紋章のヘッドマークを取り付けた車両に乗り合わせた首都圏参拝団一行は、本部広前参拝後、東光園へ移動して、こぞ首都圏布教御礼祈願祭に参拝した。珍しい屋外での祭典、六月の蒸し暑さも、東光園の傾斜の感覚も今でもあの日の記憶は鮮明である。その夜は教徒社前に、特設ステージが生まれ更に飲食の屋台も出店され、首都圏全体での直会宴となり、「東京首頭」をみんなで踊った。

徳殿のアスベスト工事のため使用できず、本部教庁ビルの一室に祭壇を設け、仕えられた年もあった。近年は新型コロナウイルスの影響と運営側の人手不足のため、東京センタービルで仕えられているが、会場が変わっても肅々と営まれていることは意義深い。

そんな大切な祭典であるが、過去に何回か執行できなかった年がある。近年では三年前の新型コロナウイルスが発生した二〇二〇年。そして二〇二〇年初頭、当時の敏腕事務局局長であった長谷川親男師がお国替えされた直後の数年間は執行されなかった。しかし、執行出来なかった時期を経て、本祭典は首都圏には欠かすことは出来ない大切な祭典という事が再確認され、フォーラム内に「壮年教師会」が設立され、壮年教師達を中心となって運営実施されていた過去をも持つ。

首都圏布教御礼祈願祭を「首都圏大祭」と位置付ける師もいる。また私はここ数年お世話になった先生方がお国替えされ、本祭典をもって首都圏の先輩諸師に御挨拶でき

きる「あつまの道のいしする霊霽示」の思いも年々増している。あるご信徒にこう言われた事がある。「首都圏布教御礼祈願祭は玄人（教師）好みの祭典ですね」と。確かにそうかも知れない。

今年も第三十三回首都圏布教御礼祈願祭が執り行われる。日時も形態も第一回当初からは、変更が余儀なくされてはいるが、それでも首都圏の信奉者が揃って、天地金乃神様、生神金光大神様、歴代金光様そしてあつまの道のいしするとなられたご霊神様に御礼とお願いをする場として。



首都圏災害ボランティア支援機構からのお願い

常日頃より、首都圏災害ボランティア支援機構の活動にご理解ご協力を賜り、誠に有り難うございます。

近年、地球温暖化の影響もあって、自然災害が多発しています。ここ3年ほどはコロナ禍のため活動しがたい状況が続いていますが、支援機構としては、活動できるようになった際に必要に応じて速やかにボランティア派遣できるよう、継続して災害に備えたいと思います。つきましては、災害発生時の息の長いボランティア派遣のために、引き続き支援金のご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご支援いただける方は、下記までお願いいたします。

「みずほ銀行 本郷支店 普通預金 2765405 金光教首都圏地震等災害ボランティア支援機構」

なお、お振り込みの際は、文字数制限の関係で、振込人の名前は「〇〇ヨカイ 〇〇〇〇」と入力下さいますようお願いいたします。

支援金についてのお問い合わせは、支援機構事務局長の宮田和弘（本所教会、03-3631-1442）までお願いいたします。

茨城・栃木教会連合会



岡本眞美会長

前期に引続いて連合会長の
お役をいただきました。この三
年間の事柄を通じて、神様は何
を私たちに伝えようとなされ、
そして私たちは何に気づき改
まってきたのでしょうか。

社会の仕組みの中で新型ウ
イルス感染症の位置づけが変
わろうとしている今、例えば、
この三年の間で感染症拡大防
止のために推奨され続けた各
種対策と、今後どう向き合っ
ていくのか、暫らくの間は手探り
状態が続くような気がします。
単に元へ戻るのではなく、新た
なものを生み出し変わっていく
ことこそが、願われているの
ではないでしょうか。

引き続き活動目標には「ひと
り一人が地域・社会のお役に立
つことを通じて、お道による助
かりの輪を広げる」を定めまし
た。お役に立つための原動力と
して、昨年の「気づきと改まり
の稽古を通じて不和なき暮ら
しを！」を今年は一歩進め、六
月の教師・信徒合同研修会にお
いて具体的な取組みの事例を
判りやすく噛み砕きながら「不
和なき暮らしに向かつていく
ための気づきと改まり」を考え

て参ります。
よきことの話にのぼるき
きをれば世にあかるさの加は
ることし、

群馬・埼玉教会連合会



松本峰子会長

群馬・埼玉教会連合会はこれ
から三年間、国連が定めたSD
Gs十七項目の目標から三つ
を選んで、年毎に取り組むこと
にします。

○令和五年のテーマは「性」
目標「ジェンダー平等を実現
しよう」を発展させた「性の多
様性への理解」を目指します。
「性」への固定的な見方が人々
に苦悩や生きづらさをもたら
す現実があります。しかし「性」
は、人が人らしく生きていく原
点です。今年七月三十日に大
宮ソニックシティで、これまで
の複数の活動をとりまとめた
新しい行事「群島のつどい」を
開催し、金光教加里屋教会長・
井上真之先生（金光教LGBT
会会長）のお話をお聞きして理
解を深めます。

○令和六年のテーマは「海」
「群島には海がない。なので海
にいこう！」ということで、ゴ
ミ拾いから始めて、プラゴミ問
題、海洋汚染と海流、大気と水
の循環、気象変動などなど、私

たちの生活のあり方を海と水
を通して考えます。

○令和七年のテーマは「力」
私たち人間は文明を発展さ
せて巨大な力、エネルギーを手
に入れました。だからこそ、そ
の力を作る責任、使う責任があ
る。現代の「もったいない生き
方」を考え直す機会にしたいの
です。

いつも天地のお働きの中で
生かされている私たち。この三
年間、性、海、力、を視点にし
て活動していきます。

今年はこの他に、教師部は研
修会として「カルト宗教と宗教
二世問題」を学びます。信徒部
は四回の運営委員会を予定し
ています。教会家庭婦人会と群
埼玉女性フォーラムは「一円玉募
金」を震災復興のために、「十円
玉募金」を東京センタービル改
築のために、少しでもお役に立
ちたいと願って実施します。

千葉県教会連合会



鈴木宏政会長

千葉県教会連合会では、これ
から三年間の指針として【原点
を頂く】恩を知り、恩に報いる
と決めさせていただきました。
恩を知らずに、恩知らずのま
ま生きていき道が栄えていく

事はありません。私たちは、天
の恩・地の恩・金光様の恩・霊
神の恩・師の恩・教会の恩と、
あげればキリがありません。恩
着せがましいのもどうかとは思
いますが、この頂いている御
恩をしっかりと教え伝えてい
きたいと思えます。

この春WBC日本代表の栗
山監督のメッセージの中に、
「野球小僧となつて」と、選手
たちを鼓舞するシーンがあり
ました。その時に私は、自分も
信心小僧にならなければなら
ないと深く思わせていただき
ました。信心小僧とは、このお
道の上を楽しく、明るく、元氣
に生きていくこと、それが和賀
心であり、そうやっていくのが、
一番の御恩返しではないでし
ょうか。

そこを念頭に置き、六月には
第五十一回研修会、七月には青
年育成祈願祭を仕えさせてい
ただきます。よろしくお願い致
します。

今年念頭に置き、六月には
第五十一回研修会、七月には青
年育成祈願祭を仕えさせてい
ただきます。よろしくお願い致
します。

東京都教会連合会



鈴木一嘉会長

今年の都連の活動方針は、
《教会間の「互助・連絡」を
一層図り、首都圏布教と社会
活動を推進する》です。
教祖一四〇年の本年は、東京

布教一三五年目でもあります。
一三五年間先人達によって紡
がれた歴史の中、多くの変遷を
経て連合会という組織が生ま
れ、都連は「布教と連帯」とい
う旗印を掲げ、今日まで来てい
ます。

その時々によって組織とい
うのは、浮き沈みというものが
ありますが、教会の集合体であ
る連合会の様も過去のものと
は違いがあり、なかなか連帯し
て布教を進める力が今は満足
に足りていないという現状で
す。そのような状況を鑑み、教
会が孤立することなく、先ずは
互助・連絡を図りながら教会間
の絆を一層深め、目的に進んで
行きたいと思えます。

三月には青少年育成を目的
とした「あおぞら運動交流会」、
更には東京布教の三本柱と語
り継がれる「定期教話」を充実
させるための「定期教話講師研
修会」を実施しました。
コロナ感染から落ち着きを取
り戻しつつある本年は、コロナ
禍で培ったオンラインも駆使
しながら、連合会活動を進めて
まいります。よろしくお願い致
します。

今年念頭に置き、六月には
第五十一回研修会、七月には青
年育成祈願祭を仕えさせてい
ただきます。よろしくお願い致
します。

神奈川・山梨教会連合会



山田信二会長

【基本方針】
教祖一四〇年を迎え、世界の平
和と人類の助かりを目指し、信
奉者が広く連帯して、お道展開
の活動を進めよう
【活動方針】
一、お道の仲間をつくろう
一、信心を高めよう
一、次の世代につなげよう
一、信心の喜びを伝えよう
この方針の下、老若男女、信
徒も教師も、総がかりで活動を
進めていきたいと願っていま
す。

すでに、教師部の教話研修会
（講師は浦和教会長・松本光明
先生）、信徒部のみんなの交流
会「花の鎌倉史跡めぐり」等
を行いました。

今後、信徒部の行事として
は、六月には女性のつどい、九
月にみんなの交流会（グラウン
ドゴルフ大会）、十二月には講
話と夕食の会を開催します。教
師部担当の行事としては、七月
に教祖一四〇年教師信徒研修
会を東京センター所長・嶋田洋
先生を招いて開催します。その
他に定期教話、「教師会」（四
回）、「ひらびの会」（教会家
庭女性の会、二回）、「山梨地域
の活動」等を予定しています。
活動については、連合会だより
「かりん」やホームページで随
時広報してまいります。

ホームページ
<http://www.kyokaiengokai.jp>